

「東日本大震災の教訓」 地域での母子保健活動を振り返って

平成24年7月10日

宮城県牡鹿郡女川町役場

健康福祉課 保健師 佐藤由理

女川町の位置



女川町の被害状況 H24/4/20現在

○3月11日現在人口 10,014名

○人的被害

死者	511名	}	831名 (8.3%)
死亡認定者	301名		
行方不明者	15名		
確認不能者	4名		
生存確認数	9,183名		

女川町企画課



女川町の被害状況 H24/4/20現在

○	住家被害数	非住家被害数
総数	4,411棟	2,100棟
全壊	2,924棟(66.3%)	1,394棟
大規模半壊	146棟(3.3%)	35棟
半壊	201棟(4.6%)	50棟
一部半壊	663棟(15.0%)	146棟
被害なし	477棟(10.8%)	475棟









3月12日の状況(体育館2, 350人)

- ・犬と猫が人と一緒に土足の体育館で寝泊り
- ・救護所静養室？でさえ、土足状態
- ・柔道用畳に毛布一枚の簡易病床
- ・水が出ない。(給水車)
- ・慢性的にトイレのにおいがする。
- ・静養室患者が、夜間簡易トイレまで這う環境
- ・幼児の下痢が心配
- ・ミルクがない



避難者の状況 (避難所完全閉鎖 11月9日)

避難者の状況 平成23年5月23日現在

避難所避難者	1,457人
二次避難者	324人
計	1,781人



避難所数 14か所

町内最大の避難所

女川町総合体育館

避難者 676人 (5月23日現在)

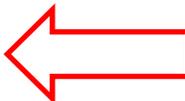
3月12日最大2,000人



パソコンが
4月中旬に
2台設置



体育館内
の一室が
保健活動
の拠点



一番困った事

- 保健センターがなくなった
- 住民基本台帳情報(しばらくして復帰)
- 母子手帳交付台帳
- 乳幼児台帳
- 予防接種台帳
- ケース記録
- 母子健診物品(カルテ、身長計、体重計、検査物品、積み木、絵本、……)
- 母子手帳、予防接種問診票

場所(保健センター)・住民情報・物品が
すべて流された

東日本大震災被災直後の女川の状況

日程	被災後	状況
3月12日	1日目	女川町に車両が入れない ライフラインが全面断絶 情報断絶・避難所でタライで湯をわかしミルクを飲ませた。
3月13日	2日目	物資・食料の配給なく、町長自ら内陸部に米を調達に行く夕方4時道路一部開通
3月14日	3日目	遺体安置場所決定 町内唯一のガソリンスタンドガソリン底をつきそう 物資調達に石巻市に行くが買えない状況 物資班に乳児用ミルク1缶 陸上自衛隊(道路復旧、遺体収容等)
3月15日	4日目	女川に初めてヘリが到着(アメリカ軍)水の供給 毛布5,000枚届く 避難所の情報網いまだなし(歩いて伝える)
3月16日	5日目	食料調達 1回6,500食、1日13,000食
3月17日	6日目	陸上自衛隊による炊き出しが開始された

東日本大震災後の経過(母子保健)

日程	被災後	経過
3月15日	4日目	在宅妊婦の家族が救護所訪問「お産が始まったらどこに行けばいいか」「救急で搬送するからここに情報をください」
3月18日	7日目	膣カンジタ症の相談が入る(着替え、入浴できない)
3月21日	10日目	女川町立病院に婦人科、産科医師が応援にきた。手書きのチラシで避難所に提示
3月22日	11日目	石巻保健所からの情報 ・分娩は全て石巻日赤で対応する ・妊婦健診は石巻市内の産婦人科(4/2時点で1ヶ所のみ)
3月27日	16日目	プライマリケア連合学会の医師2名(静岡)来所
3月29日	18日目	プライマリケア連合学会の医師による妊婦訪問7件
3月30日	19日目	東北大学小児科医師来所し、今後の打ち合わせ 毎週水曜日来所し、乳幼児、妊婦の訪問をする
3月31日	20日目	・東北大学病院で出産のための宿を用意できるとの情報提供 ・赤ちゃん基金の義援金で妊婦健診のタクシーをだせる
3月31日	20日目	東北大学エコチル八重樫教授→「妊婦さん仙台にどうぞ」
3月31日	20日目	北海道大学医師から電話・妊婦健診の車手配 ・妊婦の宿
3月31日	20日目	石巻日赤病院産科千坂医師同行し妊婦7人訪問実施

情報が無い！！

(1) 居場所(避難所名簿も毎日激動、避難所間の情報も手渡ししか方法がない。携帯開通4/6(26日目))

① 妊婦がどこにいるか

→ 家族が体育館に、3/22(11日目)のローラー

→ 3/29(18日目)産科医と家庭訪問7件

② 新生児、乳幼児がどこにいるか

→ 避難所巡回、3/22(11日目)のローラー等

3/30(19日目)病院から情報

→ 新生児訪問 4/6(26日目)小児科医と

(2) 医療情報

① 石巻市内の産婦人科の情報(4/2(22日目)保健所)

② 石巻市内の小児科の情報



(1) 妊婦に対する支援

- ① 妊婦の把握と安全な出産への支援(4月までの把握者数20人)
氏名・年齢・電話・予定日・出産予定病院・妊婦健診交通手段・
出産後どうする・宿泊支援の必要性・出産新生児物品
- ② 妊婦健診受診の確保
 - 3/31(20日目)石巻日赤病院産科医師の訪問(毎週水曜日)
 - 赤ちゃん成育ネットワークからのタクシー代助成
(タクシー会社に妊婦ごとの健診日、乗合時間調整と請求調整)
 - 自衛隊救急車調整
- ③ 出産後のフォロー
どこに退院したかの把握と新生児訪問の実施
- ④ 妊婦への情報提供
石巻日赤病院・石巻圏合同救護チーム
ママ&ベビー支援メール@石巻地区



妊産婦の宿泊支援の情報提供

- ①妊産婦・乳児避難所「協同の杜」の受入
(JA山形中央会)
- ②東京里帰りプロジェクト(東京都助産師会)
- ③宮城県立子ども病院のマクドナルドハウスの提供
- ④赤ちゃん成育ネットワークからの支援
⇒震災後、家族と離れたくない(遠くはいや)
家族と一緒にの宿泊支援なら受けたいけど・・・
⇒結局、半島地区の産婦1名が、石巻日赤病院の近くのホテルを3週間利用した。

(2) 新生児

○女川町出生数(平成22年47人 (現町民 35人))

○平成23年3月の出生 3人

○平成23年4月の出生 5人

①新生児の把握:母からの連絡・病院からの連絡

②新生児訪問:東北大学病院周産期医師との同行訪問

※体重計、メジャー、新生児物品等の母子保健物品

ユニセフ・赤ちゃん成育ネットワークからの提供

③家庭訪問用軽自動車:

赤ちゃん成育ネットワークから無償レンタル



(3) 乳幼児健診

- 健診をしようと思ったきっかけ
- 4月に入り、予防注射・母子手帳が欲しいとの訴えが出てきた。



- 健診対象者への通知⇒死亡行方不明者が整理されていない
- 対象者への周知ができるのか⇒通知、TV、ラジオ
- 場所がない⇒体育館は無理？
- 物が無い(母子手帳、身長計、体重計、問診票、カルテ、絵カード、医療機関情報……)
- 人がいない(小児科医、臨床心理士、歯科助手等)



スケジュールと作業内容

町の
保健師
の思い

母子健康手帳も、予防接種台帳も流されてしまった...
予防接種が必要な児に
予防接種を受けさせなければ！

- 4月中旬 健診の企画 (女川町)
住民基本台帳から対象者名簿作成 (女川町)
- 4月下旬 健診項目の検討と対象者数把握の把握
(女川町・他県・ボランティア)
実施要領の作成 (女川町)
医師・臨床心理士等への依頼 (女川町)

乳幼児一斉健診実施要領（女川町作成）

【概要】

女川町の全乳幼児及びその保護者に対し、総合的な健康診査を行い、予防接種の勧奨をする。

【目的】

- ① 被災した全乳幼児及びその保護者の心身の健康状態を把握し、必要な援助を行う。
- ② 4月以降実施できていない節目健診（4か月、1歳半、3歳）を行うとともに、それ以外の年齢の乳幼児の総合的な健診を行う。
- ③ 予防接種の実施状況を確認し、未実施の予防接種がある場合は、早期接種を勧奨する。

健診当日の様子

町保健師さんによる集団指導
集団指導はやっぱり町の保健師さんに！



今後の予防接種の
話を真剣に聞く
親御さん達

お母さん達は久しぶり
に再会してワイワイ
お話が弾んでいました

町の保健師さんと
会えて、お母さんたちは
安心した表情でした

健診当日の様子

女川町立病院
長も様子を見に
来てくださ
いました

受付

町の事務職員さん
石川県の運転士さん



長蛇の列...

先程まで配食
に使っていた
テーブル

身体計測

女川町の栄養士さん
鹿児島県の保健師さん



真新しい
身長計・体重計

健診当日の様子

一斉健診は初めての石川県保健師さん達でしたが、テキパキと問診してくださいました。さすがプロ！

問診

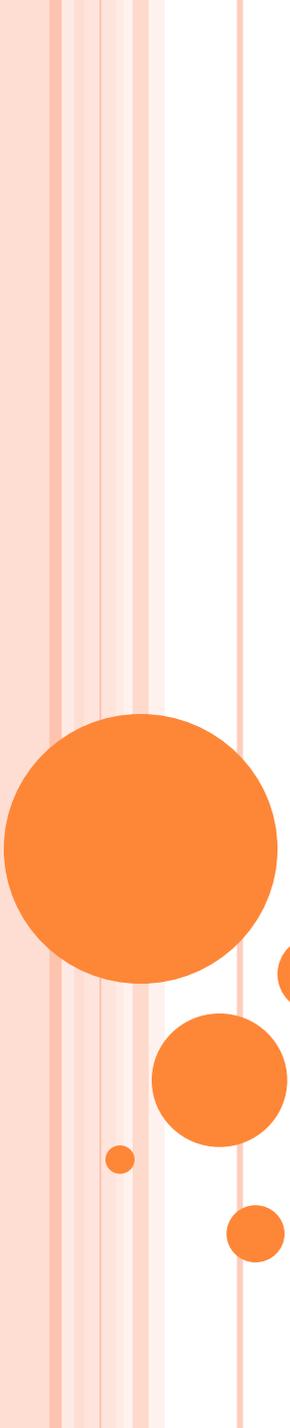
石川県の保健師さん
(健診用エプロンも提供してくださいました)



ユニセフから長テーブル2つをいただきました

女川町乳幼児一斉健診受診率

月齢・年齢	生年月	対象児数	受健児数			計	受診率	
			5月22日	5月23日	5月24日			
4か月未満	H23年1月 ~ H23年4月	6人	5人	1人	-	6人	100%	
4か月	H22年10月 ~ H22年12月	6人	4人	-	1人	5人	83.3%	
7か月	H22年5月 ~ H22年9月	17人	11人	2人	1人	14人	82.4%	
12か月	H21年11月 ~ H22年4月	20人	10人	1人	3人	14人	70.0%	
1歳半	H21年5月 ~ H21年10月	28人	7人	5人	8人	20人	71.4%	
2歳	H20年11月 ~ H21年4月	15人	2人	8人	-	10人	66.7%	
2歳半	H20年5月 ~ H20年10月	30人	5人	13人	4人	22人	73.3%	
3歳	H19年5月 ~ H20年4月	54人	3人	28人	9人	40人	74.1%	
4~5歳	H18年5月 ~ H19年4月	59人	8人	9人	24人	41人	69.5%	
小 計		235人	55人	67人	50人	172人	73.2%	
母子手帳 再交付 31人		対象児数	235人	77人	99人	59人	235人	
		受健率	71.4%	67.7%	84.7%			
6歳	H17年5月 ~ H18年4月	-	-	5人	9人	14人		
合 計		235人	55人	72人	59人	186人		



● 東日本大震災の教訓

教訓その1

どんなときでも現状把握と課題化

<現状把握>

- (1) 人
 - ① 妊婦・新生児・乳幼児等の対象者
 - ② 母子保健に関わる人 (小児科Dr、産科Dr, 助産師、PHN、栄養士、臨床心理士、保育士、事務)
- (2) モノ
 - ① 場所 (検診会場)
 - ② 物品 (何があって何がないか)
 - ③ 社会資源 (病院、ユニセフ、学会等)

<課題化>

顔がつながるとニーズが把握できる

専門職とつながると
① 課題の検討
② 解決の援助
③ 安心感

場所の確保

不足な物を準備する

協力体制

教訓その2

平常時に準備しておくべきこと(もの)

- ①被災を想定し、妊婦・乳幼児が生きるための備蓄
ミルク 0歳人数×6日分・哺乳瓶・哺乳瓶消毒
調乳用水・ポット・紙コップ・スポイト・オムツ・おしりふき
等
- ②情報管理
乳幼児台帳・乳幼児のアレルギー情報・予防接種台
帳・障がい児等訪問記録など母子保健に関する情報
の管理
- ③マニュアル⇒シミュレーションには役に立つと思われる
があまり役に立たない(今回は流されてなかった) ●

教訓その2

平常時にしておくべきこと(人)

①妊婦・新生児・乳幼児等の対象者とのつながり
(顔の見える関係)

②母子保健に関わる人とのつながり

管内小児科医師、管内産科医師、助産師、保健師、
栄養士、臨床心理士、保育士、事務

③母子保健に関わる団体を知る

宮城県小児科医会、宮城県薬剤師会、宮城県歯科医師会、
日本ユニセフ協会、赤ちゃん成育ネットワーク、日本栄養士会、
宮城県看護協会、エコチルスタッフ、製薬会社等



沖縄県から母子手帳

東京法規出版
から母子手帳

保健活動を考える自主的研究会
からカルテ、資料一式

製薬会社
予防接種問診票

宮城県小児科医会

宮城県災害保健医療支援室

女川町歯科医師

宮城県歯科医師会
歯科衛生士

愛知大学公衆衛生学教授
が乳幼児台帳作成

石巻日赤病院医師

女川町母子一斉健診
にかかわった人

鹿児島県
こころのケアチーム

東北大学病院
周産母子センター医師

石川県保健師・獣医

大阪大学病院
周産期母子医療センター医師

東北大学病院
臨床心理士

ユニセフからの物品提供

石巻保健所

赤ちゃん成育ネットワーク
からの物品提供

東北大学教育学部
臨床心理士

宮城県臨床心理士会

つながる・つなげる・つながっている

- 住民とつながっていることは、保健活動の原点です。
- その保健活動を支えてくださるのが、地域の医師だったり、大学病院だったり、宮城県内の専門家の方々とつながることで保健活動ができるのです。
- その専門家と住民をつなげる役割もあります。
- また、われわれの活動を「それでいいんだよ」「こんな方法もあるね」とか「困った時相談していいからね」と間接的につながっていることで、われわれが安心感を持って保健活動ができるのです。
- そして、そのつながりは単発なものでは安心感は得られず継続的なものである必要があると思います。
- 被災直後の課題、半年後の課題、1年後、2年後の課題と変化しながら延々と続いていく課題の圧迫感に負けそうになりながらどうにか活動できてるのは、そんな専門家の先生方のおかげです。

ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

